

「私の夢は大人になるまで生きること」11月号

～「こころの扉」を少し開いてみませんか～

平成元年11月、国連総会で全ての子どもの人権を守るための「子どもの権利条約」が採択されました。この条約では、子どもの「生きる・育つ・守られる・参加する」権利を保障しています。

しかし、子どもを取り巻く環境には厳しいものがあります。令和7年8月に出された国連パレスチナ難民救済事業機関の調査結果によると、パレスチナ自治区ガザの中心都市で急性栄養失調と診断された5歳未満の子どもの数が、7月下旬は、3月上旬に比べ3倍以上に増えたとする結果を明らかにし、「このままでは前代未聞の人災による飢餓^{きせん}が現実となってしまう」と強い懸念を表明しました。

以前『あなたの夢はなんですか?』(池間哲郎・著)の中で「私の夢は大人になるまで生きる

ことです」と答えた少女の夢を読み、強い衝撃を受けました。世界には、貧困や紛争、飢餓という厳しい状況の中で、大人になるまで生きられない多くの子どもがいます。1日に約1万3千人の子どもたちが、5歳の誕生日を迎えることなく亡くなっているのです。また、児童労働、児童虐待、人身売買など、子どもの尊厳を踏みにじる行為も後を絶ちません。国内でも、いじめや虐待により、心も体も傷ついて、夢や希望を持てず命を落としてしまった子どももいます。厚生労働省によると令和6年の小中高生の自殺者数は529人で、昭和55年以降最多だったそうです。

国の中内外を問わず、かけがえのない命が奪かされています。

子どもには笑顔を忘れず、幸せになつてほしいと願わない親はいません。貧困や紛争の解決は簡単ではありませんが、次世代を担う子どもたちが、命を輝かせ未来の夢を語れる社会をつくることが、私たち大人の努めだと思います。

